# 道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

## ☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

アイガモに夢中になったお米作り。出荷したお米の名前は「ありが稲（とう）」？

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

平成最後の年明けということで、私もこの30年を振り返ってみることにしました。昭和天皇が崩御された時、私は「第11回パリーチュニスーダカール・ラリー」に600ccのバイクで初出場したものの、アフリカに入ってすぐにリタイアしてしまい、這々の体でレース一行を追っているところでした。「レイコ、君の国のエンペラーが亡くなったよ」とレース関係者に声を掛けられたのは、マリ共和国のトンブクツー。驚いたものの、自分の明日すら見えない中で、いっぱいいっぱい。夢破れて（ココロに）山河あり。ボロボロ状態でダカールのゴールシーンに追いつきましたが、垣間見たアフリカの人々の自然に寄り添った暮らしと子供達の笑顔は素晴らしく、見事なまでに私の価値観を根底から崩してくれました。平成の始まりは、私個人のリ・スタート。「パリダカを完走するためには、足の下の砂を読むこと」と教えてくれた横田紀一郎氏（日本で初めてパリダカに参戦した先駆者）の言葉を噛み締めながら、一歩一歩確かなものを求めていく日々が続きます。

昭和から平成に跨って走った初パリダカ。このあと洗礼を受けてリタイアに。

しかし、20代の過剰な生き方が爆発したのか、体にアラーム信号が。自然の中に住みたくなり、平成7年、37歳の時に東京を離れ富士山麓に移住。ライフラインから復活させるトレーラハウス暮らしが始まりました。免疫不全は一気に治り、初のパリダカ完走へと向かうのですが、庭いじりにワンコ散歩と毎日が自然との対話なので、「アフリカも日本も変わらない美しさだな」と思えたのが嬉しかった。自然の力は偉大なり。

アイガモ農法でお米作りを始めたのは、パリダカを3回完走した後の平成13年。次の車両を買ったものの、酷使したツケで右手が動かず断念。ラリーに向けるパワーを田んぼに向けてみると、自分たちの食べるものを作る喜びは半端でなく、夢中になりました。が、そこにハードな仕事、カフェ、動物いっぱい（拾ったワンコの里親見つけも）、まったなしの農作業、家づくり、加えて更年期で見事にぶっ倒れました～。もともとやりすぎな性格。引っ越してすぐに始めた家庭菜園とガーデンで育てていたのは200種類。裏の林（2千坪）の選定まで手でやっていたので、よく考えなくても倒れます。睡眠2時間でも平気な体がイケナイ（←イケナイのは私の性格）。ああ、平成元年の誓いはどこへ・・・

最後のラリーは2010年のモンゴルラリー。若林葉子嬢とそれは素敵な旅をした。

2月で5年目に入るライダーズカフェ。この先も大きな基盤のひとつ。

そんな中、ヤギチーズづくりをしていた夫と知り合いますが、開口一番言われたのは、「バカじゃない？死んじゃうよ」でした。確かに。優先順位を決めてほどほどにを心がけ、かなり改善したとは思いますが、平成21年（52歳）の時にテレビ放送された「激走！モンブラン」を見てから、一気にマイ・トレランブームに突入。すぐに富士山一周のUTMFの実行委員にもなり、コース造りと整備で年間200日は山に向かう日々。対象が砂漠か山かで、やっていることはあまり変わらないのですが、とにかく走ってゴミを拾いまくりました。もちろんまた倒れるのですが、復活したら年間33本のトレランに出るこの性格。夫も呆れる中、私を私に戻してくれたのは、16歳から乗り続け、世界を100万キロ以上見せてくれたバイクでした。きっかけは山で転倒してヒビや骨折が続いてまともに足で走れなかったからですが、平成28年にリターンバイクすると、それがもう楽しくて楽しくて。移住した松本界隈の山々も天国でした。

富士山麓から松本へ。馬、ヤギ、犬猫の大所帯でチーズ作りを開始する。

気がついたらご近所の林道をバイクで走る日々。幸せすぎかも。

クラス優勝した3年前のケープタウンのトレラン。神様の贈り物？

平成の30年間、変わったのか変わらないのか？好きなことをとことんやるのは変わらないけれど、流石に還暦すぎたので、人の手をお借りする知恵はアップ（夫はホッ？）。そして、どの分野もベースは自然なので、地球と人々が元気であるようにと願わずはいられません。それって、国の内外・天地共に平和が達成されるという「平成」の意味でしたね。次の年号の意味に大いに期待します♪

## 都市計画の中の道路⑰ 街路から見た田園都市（その5）

東洋大学国際学部・准教授
志摩憲寿

再び田園都市にお話を戻すことにしたいと思います。イギリスから諸外国に田園都市が広まりつつあった頃、イギリスにとってはまた植民地を拡大していた時代でもありました。都市計画はしばしば植民地支配に利用された面もありましたので田園都市の思想と実践も植民地に伝えられることとなりました。イギリス都市計画を伝えた人物の一人として知られている人物にチャールズ・コンプトン・リード（1880～1933年）がいます。彼は、イギリス本国では、都市計画協会の設立などに携わりつつも、ニュージーランド、南オーストラリア、マラヤ、北ローデシア、南アフリカをはじめとする植民地で様々な仕事に従事するなど、まさに「都市計画の伝道師」という人物でもありました。

リードは、1914年にオーストラリアを訪ねると、田園都市を中心とした当時のイギリスの都市計画についてアデレードやブリスベンなどで会議や展覧会を開催し、オーストラリアで初めての政府公認都市計画家として活躍することとなりました。アデレード郊外での単調な宅地細分化を防止するために、グリーンベルトを設けることを提唱すると、政府よりアデレード郊外の120ヘクタールほどの土地に「モデル田園郊外」を計画することを依頼されました。これが後にコロネル・ライト・ガーデンと改名される「ミッチャム田園郊外」で、「オーストラリア・ニュージーランドのハムステッド」と呼ばれる程の高い評価を得ることとなりました（図）。1919年に州政府に承認された「田園郊外法」に定められたミッチャム田園郊外の詳細計画には、行政から独立した「田園郊外委員会」が、あらゆる開発に対する責任を有することと定めました。第一次世界大戦により事業は遅れを生じながらも、ガス・電気・上下水道を完備、舗装道路が走り、公共交通が利用できる豊かな丘陵地の住宅地として、1921年には第1期販売が行われ、その後もミッチャム田園郊外には、教会や学校、商業施設、劇場などのサービスを充実させつつ整備が進み、1920年代を中心に数百戸単位で住宅が販売されました。

リードは1921年に南オーストラリアを離れた後もクアラルンプールやルサカなどの仕事に従事する中で、イギリス都市計画を多くの英領植民地に広めることとなりました。

参考文献：ロバート・ホーム（2001）「植えつけられた都市：英国植民都市の形成」京都大学学術出版会、Colonel Light Garden Historical Society ウェブサイト

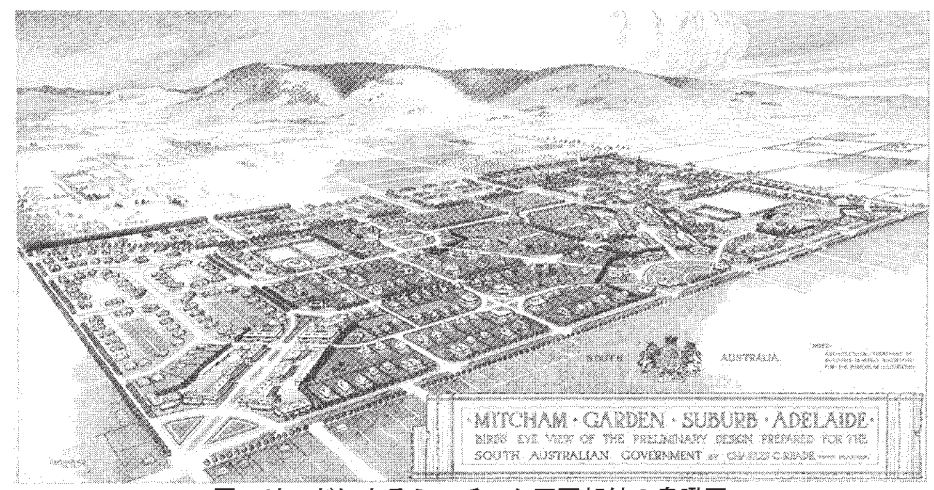

図　リードによるミッチャム田園郊外の鳥瞰図
（出典：Colonel Light Garden Historical Society（http://clghs.org.au））

## ハッと思いました

新年あけましておめでとうございます。

昨年は雨・風・猛暑・地震など大きな災害が各地で発生しました。まだまだ復旧や生活再建など道半ばです。今年も引き続いて、踏ん張っていかなければならない一年です。なのに、年明け早々、被害はなかったものの大きな地震がありました。怖いですね。

一九九五年の阪神淡路大震災の年から、今年の漢字が暮れにお披露目されてます。最初の漢字は「震」でした。昨年は「災」。災は十個の台風が襲来した二〇〇四年以来の二度目でした。

前回の「災」の翌年の漢字は「愛」でした。と言うことで今年は「愛」の様なほんわか、あったか、やさしい感じの漢字で締めくくられるのかなと、淡い期待を持っていました。

ちなみに、二〇〇〇年、二〇一二年、二〇一六年はいずれも「金」。シドニー、ロンドン、リオでオリンピック・パラリンピックが開催された年でした。この流れで行くと二〇二〇年東京の年は「？金？」に決まりかな？

それでは、今年の心がけを言葉にしたいと思います。それは「人間万事塞翁が馬」。良い事もあれば悪い事もある。明日は明日の風が吹く。

一歩先、一時先には何が起こるかわからない。その事を「覚悟」しなさいと言うことです。

事が起こるたびに、「一喜一憂」していては、限られた人生がつまんない時間になってしまいますので・・。

しかし、無責任と言うことではなく、何事も「覚悟」をすることが大事なのです。

さて、どこまで「覚悟」できるか？。年の終わりにどんな漢字で締めくくることができるか？。

一年の始まりです。